

景況レポート

(10月分・情報連絡員80名)

建築関連や高額商品の売上が好調

～景況感に改善傾向～

【概況】10月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが23.8%（前月調査17.5%）、「悪化」が27.5%（同27.5%）で、業界全体のDI値は-3.7となり、前月調査と比較して6.3ポイント上回った。マイナス桁台を記録するなど、景況感に改善傾向が見られる。

内訳として、製造業全体のDI値は6.3で前月調査と比較して18.8ポイント上回った。非製造業全体のDI値は、-10.4で前月調査と比較して2.1ポイント下回った。

前月に引き続き、建築関係や家電、自動車など価格の高い商品で売上が好調に推移しており、消費税増税前の駆け込み需要と思われる、そうでない業界との二極化が見られる。

また、電気料金の値上がりや石油製品の高騰によるコストアップが顕著になっており、取引条件、資金繰りが悪化傾向になるなど、全体的として収益の確保に課題が残る。

(回答数：80名 回答率：100%)

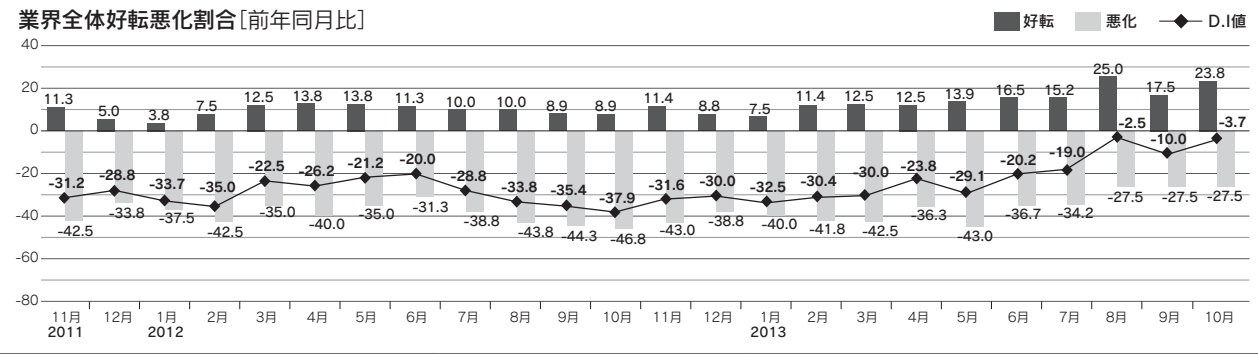
| 項目 | 業界の景況 | 売上高 | 販売価格 | 取引条件 | 資金繰り | 雇用人員 |
|------|-------|-----|------|------|------|------|
| 業種 | | | | | | |
| 製造業 | ☁ | ☁ | ☔ | ☔ | ☔ | ☔ |
| 非製造業 | ☔ | ☁ | ☁ | ☔ | ☔ | ☁ |

【凡例】

| | | | |
|------------|--------------------|----------------------|-------------|
| | | | |
| 快晴 30以上 | 晴れ 10以上 30未満 | 曇り △10以上 △30未満 | 雷雨 △30以下 |

【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。



業界の声

- 酒類製造** 9月の清酒出荷量は、1,844,548ℓで前年同月比107.6%。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比125.0%、純米酒が128.7%、本醸造酒が123.8%、レギュラー酒が102.0%と、吟醸酒・純米酒が好調に推移している。
- 繊維製品**
 - ・ 冬物の売れ行きが50～60%と低い状況が続き、工場への発注も極度に低下して、県内の縫製工場の稼働率は65%程度に落ち込んでいる。
 - ・ アイテムによって景気回復感があり、価格の高い商品の売れ行きが良いようだ。
- 木材・木製品** 消費税の値上げも決まり、値上げ前の駆け込み需要が出てきた。加えて、木材利用ポイントを活用したと思われる需要も見られ、国産材メーカーは注文に追われている。ただし、全国的に原木不足の状況で、製品価格の値上がり以上に材料となる原木価格の値上がりが続いている。
- 生コンクリート** 10月の出荷数量は前年同月比109%で、地域差はあるが、総出荷量は前年を上回っている。ただ、原材料の値上がりに加え、電気料金、軽油、灯油の価格上昇からのコストアップを吸収できる状況ではない。
- 鉄鋼** 仕事量については、各社とも平均的に確保できており、稼働率も100%以上の状況だが、資材等の値上がり分を価格に転嫁できず、採算面では必ずしも好転しているとは言えない。
- 家電販売** 前月同様に冬物家電の販売が好調。灯油価格の高騰もあり、フルシーズン向けのエアコンが特に好調。また、家電に関連するリフォーム工事にも駆け込み需要が見られる。
- 自動車販売** 10月の新車販売台数は、登録自動車が2,244台（前年同月比115.6%）、軽自動車が2,269台（同123.2%）で、合計4,513台（同119.3%）であった。今月も、軽自動車が登録車を上回った。
- 石油販売** 2008年以来5年ぶりにガソリン1ℓ当たり160円を超えるなど石油価格が高騰したが、小売価格への価格転嫁が進まず苦しい状況となっている。
- 商店街**
 - ・ 郊外で大きなイベントが開催され、昨年を上回る集客があったが、中心部には影響が及ばなかった。（大館市）
 - ・ 地元では、建築・土建業は活気がみられるが、商店街では全く景気回復の実感がない。（能代市）
- 一般建築** 建設業は、震災地の復興で各職種が忙しくしているほか、消費税増税前の駆け込み需要で忙しくなっているが、公共工事では設計単価が低く採算が合わないため、不調不落の入札が多くなっている。